

登録コード	A4C10200	開講年度	2026				
授業科目	野生資源植物学					担当教員	荒瀬 輝夫
英文授業名	Wild Plant Resource Science						
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	火曜・2時限	対象学生	農学部2年生
講義室	農学部16番講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2025アカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。					資源植物と植物分類に関する専門的知識・技術を修得している。	
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。					資源植物学の観点から農林業や自然環境に関わる情報を収集し、分析的に考察して伝えることができる基礎的素養を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース						
(4)授業の概要	本講義では、上記の主要テーマに沿って、資源植物学と植物分類学についての講義をすすめる。分類・生態・法令・保護と保全の概念・具体的事例など、できるだけ幅広い視野が身につくよう心がけて解説する。調査道具の実物を見せたり、信州や農学部フィールドをはじめ現場の実例を紹介したりもする。なお、野生動植物の環境アセスメント調査の職歴と学芸員資格をもつ教員が、実務経験も踏まえて授業を行います。						
(5)授業計画	第1回 資源植物1（栽培植物の起源と進化） 第2回 資源植物2（資源植物の種類別の各論） 第3回 植物分類1（植物形態、可塑性、同定・検索法など） 第4回 植物分類2（階層的分類と学名、標本作成法など） 第5回 植生区分と分布・地理（気候と植生、分布境界、分布の由来など） 第6回 生態系の保全と復元1（生育地の保護、関連する法令等） 第7回 生態系の保全と復元2（緑化と植生回復） なお、授業の振り返りとして、最終回の授業の最後に授業アンケートを実施する。						
(6)自主学習の指針	専門書や論文を引用する場合にはプリントに引用文献を明示し、講義中に関連分野についての紹介も行うので、より深い理解のための参考にしてほしい。 ・分からないところはそのままにせず、積極的に質問して理解すること。 ・授業内容は配布資料に概ね網羅されているが、分かりにくい内容について板書・口頭説明・サンプル回覧などの方法で補うことも多いので、ノートをとることを勧める。						
(7)成績評価の基準	・期末試験においては、受講内容を踏まえて出題の意図・目的を読み取り、必要なキーワードを用いて論理的に説明することが求められる。これが十分に達成されていることに加え、自分なりの考え・自主学習した知見体験などをまじえて解答していれば「卓越している」、受講内容を反映して達成されていれば「かなり上にある」、一通り書かれていれば「やや上にある」、説明不十分な点もあるが重要事項を理解・記述していれば「水準に達している」とする。						
(8)事前事後学習の内容	授業計画に記載されている内容について、参考書等を用いた事前学習と、配布資料などをもとにした事後学習を、それぞれ2時間程度行ってください。 ・事前学習：次のテーマについて大まかに下調べしておくこと（事前にeALPSに授業資料を掲載します）。 ・事後学習：不詳・分からない部分をそのままにせず、教員に質問してはっきり確認すること。また、配布資料で復習することに加え、参考書等から情報を補えば、より深い理解につながる。						
(9)テストやレポートの予定	・小レポート： 7回の授業のうち2回程度実施予定で、どの回かは開講年度により異なるが、第4回には毎年実施している。 出題内容は、その回の授業内容に関わる内容、または、それまでの回の内容も含めた復習であり、理解度を教員と履修者が互いに確認することを意図している。						
(10)成績評価の方法	・期末試験： ○×問題（基礎的事項の理解度をはかる）と、記述問題（総合的な深い理解度をはかる）を出題。しっかり聴講していれば解答できるレベルとする。 ・小レポート： 必ずしも全問正解を求めることが目的ではないため、基本的に成績評価には加算しない。ただし、甚だしく的外れな解答や白紙に近い場合には、受講態度が悪いとみなすことがある。 ・授業中の迷惑行為や好ましくない受講態度（携帯電話、私語、内職、指示に従わない等）は、成績評価の際に減点対象となりうるので注意すること。 ・これらを踏まえて、以下の基準で成績を評価する。 秀：90点以上（授業の達成目標の水準からみて卓越している） 優：80～89点（授業の達成目標の水準よりかなり上にある） 良：70～79点（授業の達成目標の水準よりやや上にある） 可：60～69点（授業の達成目標の水準にある） 不可（D）：50～59点（授業の達成目標の水準よりやや下にある）						

(10)成績評価の方法	不可（E）：49点以下（授業の達成目標の水準よりかなり下にある）
(11)質問、相談への対応および連絡先	・授業時間内と授業後（教室にいる間）は、質問があれば対応する。 ・授業日以外であれば研究室（B棟3F）まで質問に来てもらえれば対応する。 メール上のやりとりでもよいが、フィールドの内容が多いので直接来てもらったほうが理解しやすい。 E-mail: tearase (at) shinshu-u.ac.jp（荒瀬）
(12)履修上の注意	令和8年度からの新カリキュラムで、内容が全7回（1単位）に変わります。前年度までの全15回（2単位）の「野生資源植物学」は開講されません。 このような事情から、昨年度のシラバスの「履修上の注意」に、「この科目の単位が必要な場合、できるだけ令和7年度のうちに受講してください」という内容が明記されていました。 旧カリキュラム学生が本講義の単位を取得するには、通常授業（7回＋期末試験）に加えて、不足する1単位分の別途対応が必要になります。 よって、旧カリキュラム学生が受講を希望する場合、履修登録前に必ず、担当教員（荒瀬）まで受講希望を申し出てください。事情を確認のうえ、対応を検討して指示します。 < 授業についての注意事項 > ・楽勝科目ではありません フィールド系・生態学系の授業は楽勝と思われがちですが、内容が多岐にわたるうえ難解な内容も含まれます。油断せずに授業に臨んでください。 ・授業中の注意事項 大教室での授業なので、教室の前のほうに着席することを薦めます。 また、教材を回覧する場合、独り占めせずに手際よく次の人に回してください。教員の指示や周りの学生の動きもよく見て、回覧が滞らないようにお願いします。
【教科書】	なし（毎回プリント配布、参考文献紹介）
【参考書】	「資源植物学：研究方法への手引き」小山鐵夫 講談社 「植物文化史：栽培植物の起源、伝来、分類 続本草の植物」北村四郎 保育社 「薬用植物へのいざない」糸川秀治 裳華房 「図説植物用語事典」清水建美 八坂書房 「植物系統分類の基礎」山岸高旺編 北隆館 「生態遺伝学」酒井寛一 共立出版